

平成30年度 学校評価

伊予市立伊予小学校

【評価の基準】

- A：目標を達成 (8割以上が肯定)
 - B：おおむね目標を達成 (6割以上が肯定)
 - C：あまり達成できていない (6割未満が肯定)
- ※ 各評価資料の結果をもとに総合的に判断する。

【評価母体数】

教職員	25名
児童	427名
保護者	419名
地域	27名

【評価の基準・肯定割合】

- ◎ 8割以上肯定
- 6割以上肯定
- △ 6割未満が肯定

【アンケートの内容】

- ア：たいへんよい
- イ：よい
- ウ：あまりよくない
- エ：よくない
- オ：わからない

【目標値】 80%が肯定 以下同様

項目	小項目(重点目標)	評価指標	評定	考察・改善の方策	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果(%)				
							ア	イ	ウ	エ	オ
教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	家庭と協力して家庭学習の習慣(1~3年生は30分以上、4年生以上は、学年×10分以上学習する習慣が身に付いている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者の評価は、教職員・児童の評価より低く、目標値に達していない。家庭学習に自主的に取り組めていない現状があると推測される。 ◆ 家庭との協力体制が整っているため、現在の取組を継続しつつ、学習習慣が定着しにくい児童への個別指導や家庭との連携の仕方を工夫していく。 	教職員	◎: 95	14	81	5	0	0
		児童	◎: 84	46	38	14	2	0			
		保護者	○: 72	26	46	22	6	0			
	発達段階に応じた表現力(話す・書く)が身に付いている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 県や市の学力テストなどの客観的なデータ結果では、本校児童は、全国や県平均以上の学力が身に付いているが、児童、教職員、保護者それぞれの判断基準の違いもあるため、全体としては目標値に達していない。 ◆ 日常生活場面で活用できる力が向上するよう、スピーチ活動や短作文の記述などの「話す・書く」に焦点を当てた取組が必要である。 	教職員	○: 64	0	64	36	0	0	
		児童	◎: 82	42	40	15	3	0			
		保護者	○: 75	20	55	19	3	3			
	学年に応じた漢字の読み書きの力や計算の力の基礎・基本がほぼ身に付いている。(漢字・計算の習得率80%以上)	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 学年により多少のばらつきはあるものの、全体としては漢字、計算ともに目標値に達している。 ◆ 現在取り組んでいる「学びの広場」や日々の家庭学習課題への取組を継続し、分かる・楽しい授業への更なる授業改善に努めていく。 	漢字テスト	◎: 84						
		計算テスト	◎: 86								
		地域									
心の教育の充実	道徳科の時間を中心に、自他の生命を大切にすることを心やよりよく生きたいという心が育っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳の教科化に伴い、週1時間の確実な授業実践における指導の積み上げも肯定率の高さに繋がっていると考える。 ◆ 道徳科では、今後も「考え、議論する道徳」の授業の充実や他教科・体験活動と結びつけた効果的な指導方法の工夫等を探っていく。 	教職員	◎: 95	4	91	5	0	0	
	児童	◎: 95	73	22	4	1	0				
	保護者	◎: 90	30	60	7	1	2				
一人一人の違いを認め合い、人権を大切にする集団づくりがなされている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 各学年における人権・同和教育の授業研究や集会活動、ハッピーの木などの環境整備など、全教職員で研究・実践を深めていったことが、学校全体の人権意識の高揚につながった。 ◆ 今年度の取組の成果を継続しつつ、常に身の回りの偏見や不合理、差別を見抜き、許さない姿勢を教師自らが示していきたい。 	教職員	◎: 100	4	96	0	0	0		
	児童	◎: 91	58	33	7	2	0				
	保護者	◎: 90	25	65	5	1	4				
健康教育の推進	楽しく学校生活が送れている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 勉強や運動の達成感、温かい人間関係などを大切にして、引き続き全員が明るく生き生きと活動できる場所になるよう努めなければならない。 ◆ 定期的な学校生活アンケートと教育相談、保護者との連携により、問題があったときには、児童の思いに寄り添いながら対応していく。 	教職員	◎: 100	54	46	0	0	0	
	児童	◎: 90	66	24	7	3	0				
	保護者	◎: 94	50	44	4	1	1				
「早ね、(低学年は9時、中学年は9時半、高学年は10時)早おき、朝ごはん」の習慣が定着している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 各家庭によって生活スタイルが異なり、塾や習い事で遅い時刻に帰宅する児童やインターネットやスマホ等の使用に時間を使っている児童もおり、徹底しにくい。 ◆ 一人一人に規則正しい生活習慣の重要性を理解させるとともに、保健便り等も活用して家庭の教育力を高め、学年に応じた指導を行っていく必要がある。 	教職員	◎: 87	13	74	13	0	0		
	児童	○: 73	43	30	19	7	1				
	保護者	○: 78	42	36	18	4	0				
外遊びや個に応じた体力づくり(マラソンやなわとびなど)で健康の保持・増進に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 業間マラソンに週4回取り組んでいることや縄跳びの活性化を目指した取組(検定カードの共有、チーム連続ジャンプの啓発)が運動への必然性へとつながっているため、肯定的な回答が多かったと思われる。 ◆ 縄跳びは運動が苦手な児童も取り組みやすく少数でも楽しめるため、今後も啓発していきたい。 	教職員	◎: 100	30	70	0	0	0		
	児童	◎: 84	61	23	12	4	0				
	保護者	○: 76	31	45	19	4	1				
学校関係者評価委員の所見	○ 外遊びをしている子どもが少なく、残念に思う。安全面への配慮から、子どもの遊び場も制限されてきてはいるが、地域のよさを生かし自然の中でしっかりと遊び、遊びの中から多くのことを学んでほしい。		学校の対応	○ 今年度、環境教育の一環として第5学年が重信川の水生物の観察を行ったり、体力の向上に向けて全校で縄跳び大会を実施したりした。今後も、教育活動の中に意図的・計画的に体験活動を取り入れ、自然と触れあう機会や体力づくりの場を保障していきたい。							
	○ 健康教育の推進のため、養護教諭が各クラスを順に回って保健指導に関する紙芝居等をしているという取組が興味深い。			○ 健康の保持・増進のため、今後も学級担任と養護教諭が連携しながら、学年の発達段階に応じた指導を心掛けたい。							

項目	小項目（重点目標）	評価指標	評定	考察●・改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果%				
							ア	イ	ウ	エ	オ
生徒指導	生徒指導の徹底	いつでもどこでも自分から先に挨拶や返事ができる児童や正しい言葉遣いができる児童が育っている。	C	● それぞれの立場からの評価に大きな差がある。挨拶に消極的な児童もまだまだいるため、大人は課題意識を高く持ち、コミュニケーションの素地となる大切な力と捉えて、挨拶の活性化に力を入れていきたい。 ◆ 児童自身が挨拶の気持ちよさや大切さを感じられるように留意しながら、継続的に力を入れて指導していく。学校・家庭・地域が協力し、それぞれの立場で率先して子どもの手本となるよう努める。	教職員 児童 保護者 地域	△: 37 ◎: 82 ○: 62 ◎: 85	4 38 11 22	33 44 51 63	63 15 30 15	0 3 7 0	0 0 1 0
		いじめ・不登校の早期発見・早期解決に努めている。	A	● どの児童にも起こりうる問題として認識を持ち、早期対応の努力を全力で行うべきである。本人や保護者からの訴えが重要な場合も多いため、相談できる体制や信頼関係を築く必要がある。 ◆ 実態把握のための取組（学校生活アンケート・教育相談・生徒指導部会など）を確実に進めていく。保護者との情報共有や関係機関との連携も積極的に行う。	教職員 児童 保護者 地域	◎: 100 ◎: 89 ○: 72	50 62 14	50 27 58	0 10 14	0 1 3	0 0 11
特別支援教育	特別支援の推進	教職員の共通理解のもと、特別な支援を要する児童について、個々の指導計画が作成され、日々の支援の記録の蓄積がなされている。	A	● 個別の指導計画等の作成にあたり、保護者の同意も得て、具体的な支援の在り方を探ることができた。 ◆ スモールステップの目標を持ち、個に応じた支援に当たっていききたい。また、支援の記録を蓄積することで、次年度へのスムーズな引継ができるよう努めたい。	教職員 児童 保護者 地域	◎: 92	25	67	8	0	0
		校内体制を整え、関係諸機関との協力が必要な児童について、教師間や教育センター・施設・通級指導教室等と連携を図っている。	A	● 通級指導教室に通級の児童については、通級担当と学級担任との情報交換や連携を図って指導に当たることができた。 ◆ 特別支援教育巡回相談員の先生のアドバイスも受けながら、福祉課との連携も進め、より効果的な支援ができるよう努める。	教職員 児童 保護者 地域	◎: 100	38	62	0	0	0
研修	指導力の向上	実践力のある教師として、分かりやすく工夫した授業に努めている。	A	● 教材研究や情報交換など、学年間・教科間の協力体制が整い、指導方法の工夫改善が図られている。 ◆ 児童の興味・関心を高める課題提示や教材・教具の工夫、ICTの活用などを更に研究していく必要がある。参観日やノート等を通して、保護者にも学習の様子を伝えていく。	教職員 児童 保護者 地域	◎: 96 ◎: 88 ◎: 82	13 54 18	83 34 64	4 9 9	0 3 0	0 0 9
		信頼される教師として、一人一人の児童や家庭に適切に対応している。	A	● 学年部、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーター、前担任、生活支援員、巡回相談員、管理職、家庭等と児童の実態や指導の仕方などについて情報交換や相談を行い、連携して一人一人に合った対応に努めた。 ◆ 家庭との協力体制を一層充実させ、児童のよりよい成長のために尽力したい。	教職員 児童 保護者 地域	◎: 100	21	79	0	0	0
		切磋琢磨する教師として、常に学ぶ姿勢をもち、自己を向上させようとしている。	A	● 研究授業や研究協議、普段からの学年部での教材研究などを通して、学び合う教師集団が形成されている。 ◆ 研修内容について教職員の希望を取り入れて内容の充実を図るとともに、それぞれの持つ優れた教育技術を伝え合う姿勢を大切にしていきたい。	教職員 児童 保護者 地域	◎: 96	17	79	4	0	0
学校関係者評価委員の所見		○ 挨拶の様子については、地域性もあって、全体的におとなしいという印象を受けている。個人差・地域差もあるが、中学生は、部活動での影響もあり比較的よくできている。大人でもできていない人がいるので、まずは、地域の大人も積極的に挨拶をして子どもたちに見本を示し、挨拶の習慣化を図りたい。 ○ 不登校傾向の児童の実態に応じて今後も対応も進めていく。 ○ 他校には通級指導教室があると聞いたが、伊予小でも学習の個別指導を継続・充実させていくとよい。	学校の対応	○ 挨拶の活性化に向け、学校・家庭・地域が連携して取り組んでいく必要がある。学校では、教師の呼び掛けだけでなく、児童会による挨拶運動や放送による称揚、高学年のリーダーの育成など、意欲化に向けての工夫をしていきたい。 ○ 不登校になる要因はケースバイケースで、これといった原因が特定できないケースも多い。伊予市には、教育相談員、スクールカウンセラーの配置や不登校傾向の児童が交流できる適応指導教室等もあり、多方面からのサポート体制が整備されている。今後も子どもや保護者に寄り添い、関係諸機関とも連携も図り対応していきたい。 ○ 通級指導教室は、予算や施設等の問題もあり現在のところ本校には設置されていない。本校では、補充学習として年間20回程度、水曜日の放課後を利用した「伊予っ子ルーム」を実施しており、少人数の児童を複数の教員で指導して学力の底上げに努めている。今後も指導方法の工夫・改善を図りながら、個に応じた指導に努めたい。							

項目	小項目（重点目標）	評価指標	評定	考察●・改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果%				
							ア	イ	ウ	エ	オ
安全管理・施設設備	安全・安心な学校づくり	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	A	● 火災、地震、不審者対策等、様々な危機を想定して避難訓練・防災訓練を実施した。児童には予告せず休憩時間等にも実施することで、自ら考え行動し自分の安全を守る意識も高まってきている。 ◆ 今年度、天候の都合で小中合同の引き渡し訓練等は実施できなかった。次年度は1学期の早い時期に計画して実施したい。	教職員	◎ 96	33	63	4	0	0
		児童の安全確保のため、校外指導が充実している。	A	● 地域の方やPTAの協力により、登校時の見守り活動が充実している。環境整備・児童指導ともに改善を続けている。 ◆ 情報提供に留まらず、児童への直接的な関わりをしていただき、大変ありがたい。下校時の安全確保にも可能な限り取り組んでいきたい。	教職員	◎ 96	38	58	4	0	0
		環境美化・施設設備の整備など、よりよい教育環境づくり、安全・安心な学校の施設・設備の整備・充実に努めている。	A	● 日常の点検や、毎月の安全点検を確実に実施し、危険箇所については、管理担当者を中心に早期の迅速な対応に努めている。 ◆ 日頃から危機管理意識をしっかりと持ち、児童の安全確保を第一に考えて指導に当たる。また、清掃活動や校内掲示等にも配慮し、環境美化に努める。	教職員	◎ 96	25	71	4	0	0
保護者・地域住民との連携	地域に根ざした学校づくり	地域の人材や教育資源を生かした教育活動がなされている。	A	● 学年ごとに特色ある教育活動が計画されている。地域の人・もの・自然を効果的に活用した教育活動を通して、知識や技能を得ることができている。 ◆ 活動の内容が限られているため、今後、地域の方の人材情報を広げる必要がある。教育支援ボランティアリストの更新、活用を図る。	教職員	◎ 92	25	67	8	0	0
		学校だより・学年だより、ホームページ等で学校の情報を積極的に発信している。	A	● ホームページの充実に力を入れ、学校行事や各学年の活動の様子を迅速に更新し、タイムリーに情報を提供することができた。 ◆ 今後も積極的に情報発信し、学校の教育活動への理解や協力が得られるよう努めたい。	教職員	◎ 96	67	29	4	0	0
		幼稚園・保育所・中学校との連携が図られている。	A	● 幼稚園・保育所とは、年に3回の保幼少連絡協議会の開催や保育参観、授業参観における交流、中学校とは、授業参観や運動会等の行事に加えて、今年度は芋植えや芋ほり等の交流も行った。 ◆ 保・幼・小・中の隣接した立地条件を生かし、密に連携を図ることで子どもたちの連続した成長の様子を見守り、指導・支援に生かしたい。	教職員	◎ 96	17	79	4	0	0
学校関係者評価委員の所見		○ 親による児童虐待が社会問題にもなっているが、家庭における子どもたちの人権や心身の安全は保障されているのだろうか。家庭内でのことは見えにくい部分もあるため、学校や地域等、周囲の大人が常にアンテナを張り、気になる兆候があれば情報を早くキャッチし、対応に当たる必要がある。		学校の対応			○ 毎学期実施している学校生活アンケートには、家庭の悩み事を記入する欄も設けているが、これまでのところ虐待に関する訴えはなく、日々の児童観察からもそのような兆候は見受けられない。しかし、常に危機管理意識を持ち、多方面からの情報収集に努める必要性を感じている。また、学校でできることは限られているため、市の担当者や教育委員会、警察署や児童相談所等の関係諸機関と連携して、早期発見・早期対策に努め、児童の安全や生命を守っていきたい。				
		○ 小中の交流が積極的になされている。今年度は、小中合同で芋苗植えや芋掘りをした様子が学校便りで紹介されており、子どもたちの生き生きとした表情が印象に残っている。また、収穫した物を食する体験は食育にもつながるものと考え。昨今は、子どもたちの農業体験が少ないと危惧されているため、このような活動は今後も続けていってほしい。					○ 保育所・幼稚園、中学校との連携は、子どもたちのスムーズな接続に欠かせない。子どもたちの情報交換、交流のみならず、教職員間における互いの教育活動の理解も深めていきたい。また、ご意見いただいた芋苗植え・芋掘りや田植え・稲刈り等の活動は、毎年南伊予農協の方のご協力のもと行っている。子どもたちも楽しみにしている活動なので今後も、小中連携しながら続けていきたい。				
		○ 地域人材を生かした教育活動が活発に行われている。ゲストティーチャー等の人材の確保に向け、公民館からも老人クラブ等に声掛けをして協力を呼び掛けたい。					○ 学校全体で地域の教育力を生かした教育活動を推進している。今後も教職員自らが積極的に地域に出向き、交流を深めることで地域教材の発掘・開発に努めたい。				
		○ よりよい環境となるよう学校の施設・設備の整備を進めてほしい。					○ 伊予市の全小中学校にエアコンの設置が決まり、31年度中には、取付工事が始まる予定である。児童にとってより快適な学習環境が整備できることが期待される。また、今年度は、他県のブロック塀の損壊の事故を受け、本校でも再度ブロック塀の安全点検を行い、プール横の塀の補強工事を行った。今後も日常の安全点検を徹底し、安全・安心な教育環境づくりに努めたい。				